

新型コロナウイルスの感染拡大から暮らし守れ 「1人10万円」実現

やまぎし いっせい
山岸一生
立憲民主党衆議院東京9区(練馬)総支部長・38歳



野党提案、政府が追う

「1人10万円の給付」を、政府が決めました。新型コロナウイルスにより経済活動が急速に縮小する中、さしあたって暮らしを守るために、必要な給付です。

多くのみなさんとともに、立憲民主党はじめ野党は、「1人10万円の給付」を求めてきました。国民の声と野

党の提案に、やっと政府が追いついた形です。欧米では、すでに給付金の振り込みが進んでいます。安倍政権は遅すぎます。

今ほど、政治の役割が問われている時はありません。「政府が生活に責任を持つ、だから、家において下さい」。この明確なメッセージを出

すことが、政治の責任です。しかし安倍政権は、中途半端でプレてばかりいます。立憲民主党はこれからも、私たちの命と暮らしを守るために、声を上げていきます。

練馬(衆議院東京9区)からは山岸一生が、「あなたと、いっせいに」。どうぞ声をお寄せください。

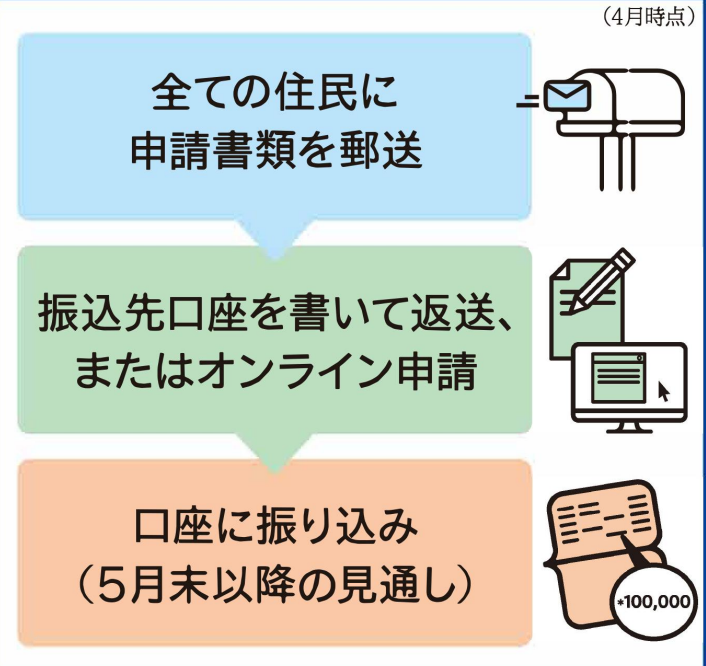


立憲民主党
RIKKEN MINSHU 号外
東京版 2020.5.1

〈山岸一生事務所〉
〒177-0041
東京都練馬区石神井町
7-1-14 石神井スカイビル
Tel. 03-6676-7318
Fax. 03-6632-4145
issei@yamagishi-issei.jp

プロフィール
やまぎし・いっせい
立憲民主党の衆議院東京9区(練馬)の公認候補予定者。38歳です。2004年、朝日新聞社入社。高知、京都での勤務を経て東京で政治報道に携わる。沖縄でも2年間勤務し、辺野古問題や「オール沖縄」取材しました。2019年5月、15年間の記者生活にピリオドを打ち朝日を退社し、立憲に参加。7月の参院選に東京選挙区から立候補しましたが、次点で惜敗しました。参院選でいただいた49万6347人もの声を胸に、練馬から再起を期します。1981年8月28日生まれ。趣味は登山、サイクリング、サウナなど。東京都三鷹市出身。筑波大学附属駒場中・高等学校、東京大学法学部卒。家族は妻と母。

「1人10万円」給付の流れ



山岸一生 公式 LINE 定期的な発信中!

Your voice
あなたの声をお聞かせください。

〈政策〉

山岸一生が、
あなたと
守りたいもの



- 公立小中学校の給食を無償化します。
- 待機児童の解消と保育の質の向上を目指します。
- 児童虐待や、いじめを受け子どもたちの保護と保護者への支援を強化し、児童相談所など関係機関の体制を充実させます。
- 国立大学の授業料を半額程度に引き下げ、未来を担う若手研究者を育みます。
- 表現の自由・言論の自由を守り、多様で創造性あふれる社会を育みます。



- 中小零細企業への支援を拡充しつつ、5年以内に最低賃金1300円を実現し、さらに引き上げを目指します。
- 「就職氷河期」世代が安心して人生設計を描けるよう、正規雇用への転換を図ります。
- 安心を支える介護職、保育職の大幅な賃金引き上げを実現します。
- 個人の可能性が芽吹く社会へ。選択的夫婦別姓を実現します。
- セクハラ、パワハラなどあらゆる人権侵害のない職場を作ります。



- 安心して医療や介護が受けられるよう、年金の最低保障機能を強化します。
- 公営住宅を大幅に拡充し、高齢者や若い世代の住まいを支えます。
- 「空き家」対策を進め、まち全体の資産価値を向上させます。
- 断熱リフォームの義務化で住宅の寿命を延ばし、中古市場を活性化させます。
- 練馬の良好な住環境を守るためにも、都市農業を振興します。
- 安心して住み続けるために。原発は速やかに廃止。



立憲民主党代表
枝野幸男



**山岸一生さんと
まっとうな政治を
実現します。**

新聞記者 / **山岸一生のこだわり**

2013〜15年、朝日新聞の記者として沖縄で取材しました。那覇市長だった翁長雄志さんが、「辺野古移設」に反対し、幅広く党派を超えて「オール沖縄」のうねりを立ち上げるのを、間近で取材しました。翁長さんは14年に県知事に就任。「まだまだ、政治には可能性がある」。翁長さんと「オール沖縄」を取材して、確信を持ちました。新聞記者として、志を新たに思ういました。

しかし、15年に東京に戻った私が直面したのが、「安倍一強」の荒涼たる政治でした。このままではいけない。私は、翁長さんをお招きして、東京でシンポジウムの開催に奔走しました。沖縄という視点を通じて、「排除と分断」が進む日本の政治の危うさを告発する思いでした。

新聞記者として、精いっぱいやった。しかし、日本の政治はその後崩れていく一方でした。翁長さんは18年に、志半ばでなくなりました。次は自分が、行動を起こす番だ。沖縄での経験は、私が政治家を志すこととなった原点です。

「オール沖縄」に見た政治の原点